

金沢刑務所・富山刑務所 見学記

2015年11月2日、弁護士17名及び事務局1名で、金沢刑務所と富山刑務所を見学した。

金沢刑務所

会員
神谷 竜光 (67期)



2列目右から3人目が筆者

2015年11月2日、金沢刑務所を見学した。金沢刑務所は、住宅地を通った先の高台にあり、一つ山を越えた先に金沢大学があるという場所に位置する。

まず、処遇部長より、金沢刑務所の概要を伺った。収容定員は、受刑者が661人、未決被収容者が95人、合計756人である。七尾拘置支所がある。処遇指標は、犯罪傾向が進んでいる受刑者（B指標）及び日本人と異なる処遇を必要とする外国人（F指標）である。執行刑期が長期でない者を収容しており、平均は2年8月とのことであった。

現在の収容状況は、見学した日の時点で、受刑者460人、未決被収容者45人、合計505人で、収容率は60%程度と聞いた。収容人員は、年々減少傾向にあるとのことである。罪名は、窃盗及び覚せい剤事犯が多いとのこと。被収容者の年齢の割合は、全国的な高齢化の流れとは異なり、そこまで変わっていないようである。また、仮釈放を積極的に活用しており、ここ3年は、50%前後の者が仮釈放されているとのことであった。

矯正指導としては、教科指導のほか、一般改善指導及び特別改善指導の両方を行っている。職業訓練としては、溶接科、ビル設備管理科のほか、パソコンのWordやExcelの基礎的な利用方法を教えるビジネススキル科もあるとのことである。また、刑務作業は、高齢者と高齢者以外とを分けて行っているとのことであった。

次に、刑務所長の案内で所内の見学を行った。工場棟と生活棟に分かれており、工場棟は、過剰収容の流れを受けて、新しく建てたところ以外は、平屋で、新しい工場棟のみ2階

建てで刑務作業に当たらせていた。生産作業は、木工、印刷、洋裁、金属を行っていた。食事は評判がよく、食べ残しがほとんどないとのことであった。

生活棟においては、風呂場が新しくなり、一度に50人程度入浴できるとのことである。また、医療設備も古くなく、歯科医師も呼んでおり、見学当日も受診している被収容者がいた。当日は雨模様であったために、被収容者は、体育館で、バドミントンや筋力トレーニングをしたり、テレビを視聴したりと各々の活動に興じていた。保護室は、旧式のものど多少新しいものの2つあり、静穏室はないとのことであった。保護室には、作業に出ることを嫌って入りたがる被収容者がいるとのことであった。居室は、過剰収容の頃とは異なり、8人収容できる集団室でも、4・5人程度の収容で、余裕がある状況であった。また、1人部屋は、空室も散見された。

所内の見学の後、予め委員会より金沢刑務所に渡されていた質問に対する回答を含めた質疑応答をした。その中で、所内見学中に貼られていた「見栄を張らない」とのポスターに言及があった。これは、被収容者が、見栄を張ることによって人間関係でトラブルが生じることが多いことを踏まえているとのことであった。

質疑応答の後に、刑務作業で作られた物品を見学者で購入した。金沢刑務所の体育館には、棟方志功画伯の山海頌図が飾られていた。同図に見守られ、熱心にバドミントンに興じていた受刑者は、見栄を張っているのではなく、素のままのようであった。出所後もそのような生活を出来ることを祈りつつ、見学は終了した。

富山刑務所

刑事拘禁制度改革実現本部委員
須崎 友里 (67期)



右から4人目が筆者

2015年11月2日、富山刑務所の施設見学を行ったので、その報告をする。

1 施設の概要

富山刑務所は、富山ICを降りてすぐの場所に位置する。収容定員は587名であるが2015年11月2日現在の被収容者数は354名、うち未決拘禁者は5名である。驚くべきことに、富山県内の未決拘禁者は8名とのことであった。

収容区分は、主に名古屋矯正管区内で確定した受刑者のうち、執行刑期10年未満で犯罪傾向の進んだおおむね26歳以上の成人男性及び未決拘禁者である。累犯者が多く、服役経歴4回が平均である。平均刑期は3年で、無職者が7割弱を占める。現在の受刑者の平均年齢は47歳で最高齢は84歳である。暴力団関係者については受刑者の19%を占める。

職業訓練としては、フォークリフト、2級ボイラー-技士等の他、木工指導が行われている。処遇について、特に特徴的なのは、民間のラジオDJによる「730(ナナサンマル)ナイトアワー」という生放送番組である。富山刑務所においては36年間続いているラジオ番組で、全国でも生放送は富山刑務所のみである。受刑者からテーマについてのメッセージを募集して、番組内で読み上げリクエスト曲を流しているそうだ。これは是非とも聴いてみたい。

就労支援も行っており、キャリアカウンセラーが、厚生労働省と連携して公共職業安定所の職員による職業相談、職業紹介、職業講話も実施している。

2 施設の見学

まずは工場から見学を始めた。洋裁や金属等の物品製作作業などのほか、1つの工場では、富山刑務所ならではの木工品の製作を行っていたのが特徴的だった。また、ある工場では、社会の就労体系に近づけようと、8時間作業を施行していた。この作業時間に対して、受刑者の反発等がないか尋ねたが、皆一生懸命やっているとのことであった。なお、他の受刑者と作業時間のバランスをとるために、第2、第4

水曜日は作業をしない日として設けているとのことである。

風呂場の湯船は循環式で、常に綺麗なお湯に浸かれるよう配慮されていた。保護室には、冷房、床暖房が完備されていたが、年間の使用件数は2013年に67件、2014年に87件、2015年(9月末まで)で29件とのことである。医療については、驚くほど完備されていた。常駐の医師も存在し、医務室はさながら病院のようであった。歯科医用の医務室もあり、週2回は診察が受けられるそうである。

体育館では、筋力トレーニングの機材や卓球、囲碁、将棋等の道具が置いてあった。聞くところによると、この体育館において、富山刑務所で撮影も行われた映画「あなたへ」の上映会も行われたそうだ。その時には、主演の高倉健さんも舞台挨拶に来たという。激励の言葉をもらった受刑者が、少しでも早く社会に復帰できることを願うばかりである。

3 富山刑務所名物「神輿」

富山刑務所といえば、神輿が有名である。富山刑務所の木工製品である神輿は、全国の神社、町内会、自治会などから注文を受け、現在までに5000基以上を納めている。この神輿は、将来の修理に対応できるように、屋根、桷組、胴体、台輪などパーツを分解することができる。修理を重ねれば100年の使用にも耐えられるという逸品である。神輿の繊細さを見て、これをすべて手作業で行っているのかと思うと、惚れ惚れする。神輿の価格は60万円(1.3尺)から615万円(3尺)と様々である。

もっとも、出所後にこの木工の技術を活かす場は少ない。日本の伝統工芸の一つとして、受刑者が受け継いでいけるように、就労先を確保する必要もあろう。

4 さいごに

特徴的な処遇、刑務作業を有する富山刑務所を見学することができ、非常に貴重な体験ができた。特にラジオの生放送は、他所でも取り入れ、受刑者の社会復帰に役立つことを願う。